

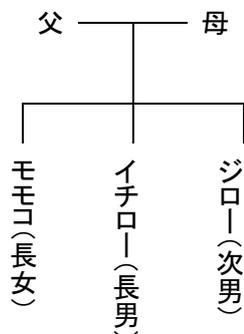
【10】

テーマ「対話、自尊感情、子どもの最善の利益」

タイトル「この年頃にありがちなこと ～ 子育て（親育ち）で大切にしたいこと ～」

【学習資料】

＜家族関係図：A3版に拡大したものを掲示する＞



＜場面カード：A3版に拡大したものを模造紙の中央に貼っておく＞

【場面1】お散歩

ある日曜日の夕方、お父さんはイチロー（当時小1）と手をつないで散歩していました。

向こうから来る50代ぐらいの母親らしき女性と、そのお子さんらしき20代ぐらいの大柄な男性の2人連れとすれ違いました。

男性は何かの障がいがあるのか、女性に手を引いてもらいながら、少しぎこちない感じの歩き方をしているように見受けられました。

それに興味を引かれたのか、イチローが男性を指差して、2人連れにも聞こえそうな声でお父さんに聞いてきました。

「変なの！ 大人のくせに、何で手をつないでいるの？」

【場面2】イライラ

ある日、お母さんはイチロー（当手中2）とスーパーで買い物をしていました。それを見かけた同級生の女子が、次の日学校でイチローに言いました。

「あんた、マザコンか！」

その日からイチローはお母さんを無視し始め、お母さんが何を言っても返ってくる言葉は「ウザイ」の一言になりました。

そのうちイチローのイライラはつのも、ある日、帰ってくるなり、お母さんとジロー（当時小6）の目の前で台所の壁を「バン」と蹴りました。

【場面3】ロゲンカ

ある日の夕方、お母さんは台所で夕食の準備をしていました。リビングでは、モモコ（当手中2）が宿題をし、ジロー（当時小4）がゲームに熱中していました。

お母さんはモモコにお手伝いを頼みました。早く宿題を仕上げたいモモコは、ジローにお手伝いをしよう言いましたが、ジローは全然聞きません。モモコはジローにきつく言いました。

モモコ：わたし今勉強中なの！ ジロー、あんた遊んでるくらいならお手伝いしなさいよ！

ジロー：やーだね！ お母さんはお姉ちゃんに頼んだんだよ

モモコ：あんたは遊んでいるだけでしょ？ わたしは勉強しているの！！

ジロー：うるせー！ バカ！！ お姉ちゃんなんか死んじゃえ！！

【場面4】お買い物

モモコ（当時小4）の誕生日、お父さんがデパートにケーキを買いに行こうとすると、モモコとジロー（当時年長）が一緒に行きたいと言い出しました。お父さんは「ケーキの他には何も買わないって約束できるなら一緒に行こう」と言いました。

いざデパートに着くとジローは最新のゲームソフトを見つけ、どうしても欲しくなり、お父さんにねだり始めました。

ジロー：僕ケーキ食べないからあのゲーム買って！

父：ケーキの他には何も買わない約束だったよね

ジロー：いやだあ！ ゲームが欲しい…

ジローは通路に寝そべり大声で泣き始めました。周りのお客さんは迷惑顔です。お父さんとモモコは、ジローから距離を置いて見ていましたが、しばらくしてモモコがそっとお父さんに話しかけました。

モモコ：みんなが見てて恥ずかしいジローにゲームを買ってあげて

【場面5】末っ子

ある夜更けのお母さんとお父さんの会話です。

母：ジロー（当時小4）の部屋があんまり乱雑だから言ってやったのよ「お姉ちゃん（モモコ：当時中2）やお兄ちゃん（イチロー：当時小6）は何も言われなくても片付けるのに何であなたはできないの?!」って

父：でジローは何て言ったの？

母：「今、片付けようと思っていたのに、そんな言われ方したらヤル気がなくなったし！」ってまったくもう見え見えのウソついちゃって…末っ子が甘えん坊になるって本当ね

父：いちいち比べるからジローも腹を立てたんじゃないの？

母：何よそれ！ じゃあ、あなたならどう言うのよ？

【場面6】お知らせ

ある日、お母さんはモモコ（当時中3）が通う中学校の先生から、懇談会のお知らせの返事が届いていないという電話を受けました。懇談会のことを全く知らなかったお母さんはあわてました。すぐに学校からのお知らせを確認したいお母さんは、モモコの部屋を探してみることにしました。その日の夕方、帰ってきたモモコに学校からのお知らせを見せながら…

母：どうして懇談会のお知らせを見せなかったの!?

モモコ：勝手に探したの？ サイテー！ 私がいない時に勝手に部屋に入らないで！

母：なによその言い方は！ 出さないあなたが悪いんでしょ！

<子どもの権利条約カード（大意）>

「子どもの権利条約」（大意）

第3条 子どものために何かを行うときは、子どもの最善の利益（その子どもにとって最もよいこととは何か）を考えた上で行います。

第5条 父母（保護者）は、その子どもの成長のためにふさわしい指導をする責任と権利があります。

<ふりかえりシート>

今日の学習を通して、子育てをする上で大切にしたいと思ったことを短い文で書きましょう。

【学習のポイント】

○子どもの成長に伴って起こりがちな場面をもとに、課題を整理したり対応を考えたりすることをおして、子どもにとって最もよいこととは何かということについての理解を深める。

【キーワード】

○子どもの自尊感情を育てるために、保護者に必要な人権感覚

【すすめ方（80分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5	1 話合いのルールを確認 2 アイスブレイキング (参加者の実態によっては省略してよい)	■「まじめなおしゃべり」という感覚で、肩の力を抜いて参加してください（全体の前で意見発表する場面はありません） ■子どもの好きな食べ物を紹介しながら自己紹介しましょう	◆「参加・尊重・守秘」を掲示しておく ◆各テーブルにグループ名（花の名）の札を置いておく ◆ファシリテーターも自己紹介する
展開1	2	3 学習の見通しを持つ	■いじめをしない子どもを育てることを目標に、ある一家の子どもの成長に伴って起こった場面をいくつか取り上げながらグループで話し合い、子育てをする上で大切にしたいポイントについて考えます	◆家族関係図を描いた模造紙を掲示する
展開2	8	4 自グループ（4～5人程度）の場面を共有し疑問点を出し合う	■①自分たちのグループの場面を確認し、②気になる箇所に線を引き話し合しましょう	◆先行事例を掲示する。
	2	5 みつばちワクワクカフェの進め方を確認	◆ファシリテーターが以下を説明する	
		① みつばち役になる順番を決める ② みつばち役はワークシートを持って他のグループに移動し、場面と気になる箇所を説明し、話合いで出された意見をワークシートの余白に書き込んでもらう ③ みつばち役がグループに戻り、もらった意見を報告する ④ みつばち役を交代し②③を繰り返す ⑤ 終了後、他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼る * 参加者数、時間設定に応じて場面数・セット数をファシリテーターが指示する		
	10	6 みつばちワクワクカフェ第1セット	■みつばち役が持ってきた場面について話し合しましょう（9分） ■グループに戻って報告しましょう（1分）	◆模造紙の中央に場面カードを張ったワークシートを配布する
	10	7 みつばちワクワクカフェ第2セット（9分+1分）		
	9	8 みつばちワクワクカフェ第3セット（8分+1分）		
	9	9 みつばちワクワクカフェ第4セット（8分+1分）		
	8	10 みつばちワクワクカフェ第5セット（7分+1分）		
		・みつばち役を交代しながら繰り返す ・意見の出具合を見ながら時間配分・セット数を調整する（すべての場面を扱わなくてもよい）		
		①話合いで出された意見を書き込んでいく ②話合いが終わったら自グループの名を書き、花びら状に囲む ③最終セットが終わった時に花が完成するようにする		

展開3	2	11 子どもの権利条約の確認	■「子どもの最善の利益」「保護者の責任と権利」を常に意識するようにしたい	■子どもの権利条約カードを配布する
	6	12 ギャラリーウォーク	■他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼りましょう	◆「いいねシール」(ドットシール、付箋等)を配布する
まとめ	7	13 振り返りシートに記入(2分)した後、グループで共有(5分)	■今日の学習を通して子育てをする上で大切にしたいと思ったことを振り返りましょう	◆グループ内で共有することを予告した上で書いてもらう
	2	14 まとめ	◆子どもを鏡として、自分自身を反省的に振り返りながら親育ちしていこうとする姿勢を大切にしたい 等	◆「いいねシール」をたくさん集めた意見の紹介、ファシリテーターの体験談を盛り込むと効果的
			※必要に応じて場面カードのテーマを説明する 場面1：障がいのある人(気まずい一言) 場面2：反抗期(しつけ) 場面3：きょうだいゲンカ(いけない言葉) 場面4：しつけ(世間体) 場面5：きょうだいを比べること(決めつけ) 場面6：プライバシー(子どもの最善の利益)	

<みつばち役の移動の例>

- * 1セット目：時計回りに隣へ移動
- 2セット目：時計回りにひとつ飛ばしで移動
- 3セット目：時計回りにふたつ飛ばしで移動…等

【先行事例】

【プロ野球】

雨がしとつく夕方。今日は米子でプロ野球のある日です。お父さんと観戦に行く約束をしているイチロー(当時小4)はお父さんの帰りを今か今かと待っています。

父：ただいまー

イチロー：お帰りなさいー！ お父さん 早く行こうよ！ 早くう！

父：はいはい ちょっと待っててね しかし空模様が心配だなあ…

イチローとお父さんは駅まで歩いて行きました。駅の改札で、お父さんは駅員さんにプロ野球の試合があるかどうか聞きました。駅員さんは試合が中止になったことをお父さんに伝えました。

駅からの帰り道、ガマンしきれなくなったイチローは、しゃがみこんでシクシク泣き始めました。

問い「お父さんはどうすればよいでしょう」